

学校再整備に向けた検討状況の報告

- 取組の全体像
- 有識者等と、町長・教育長の対談
- 工事工程の再検討結果
- はやま楽校プロジェクトの概要

(令和8年6月5日参考資料では(仮称)共創WEEK～イノベーションの整備に向けて)

令和8年度の取組の全体像



事業方針に関する取組

社会情勢や物価動向を踏まえ、今後の方針を検討する

楽校の可能性を考える取組

取組①

有識者等との対談

「財源の確保や地域社会への波及効果など、多面的な視点から議論をさらに深める」ための対談

構想の妥当性を検証する取組

取組②

工事工程の再検討

葉山小学校の校舎を残しながら新校舎を建築する案と、一色小学校に仮設校舎を建てて新校舎を建築する案の再比較

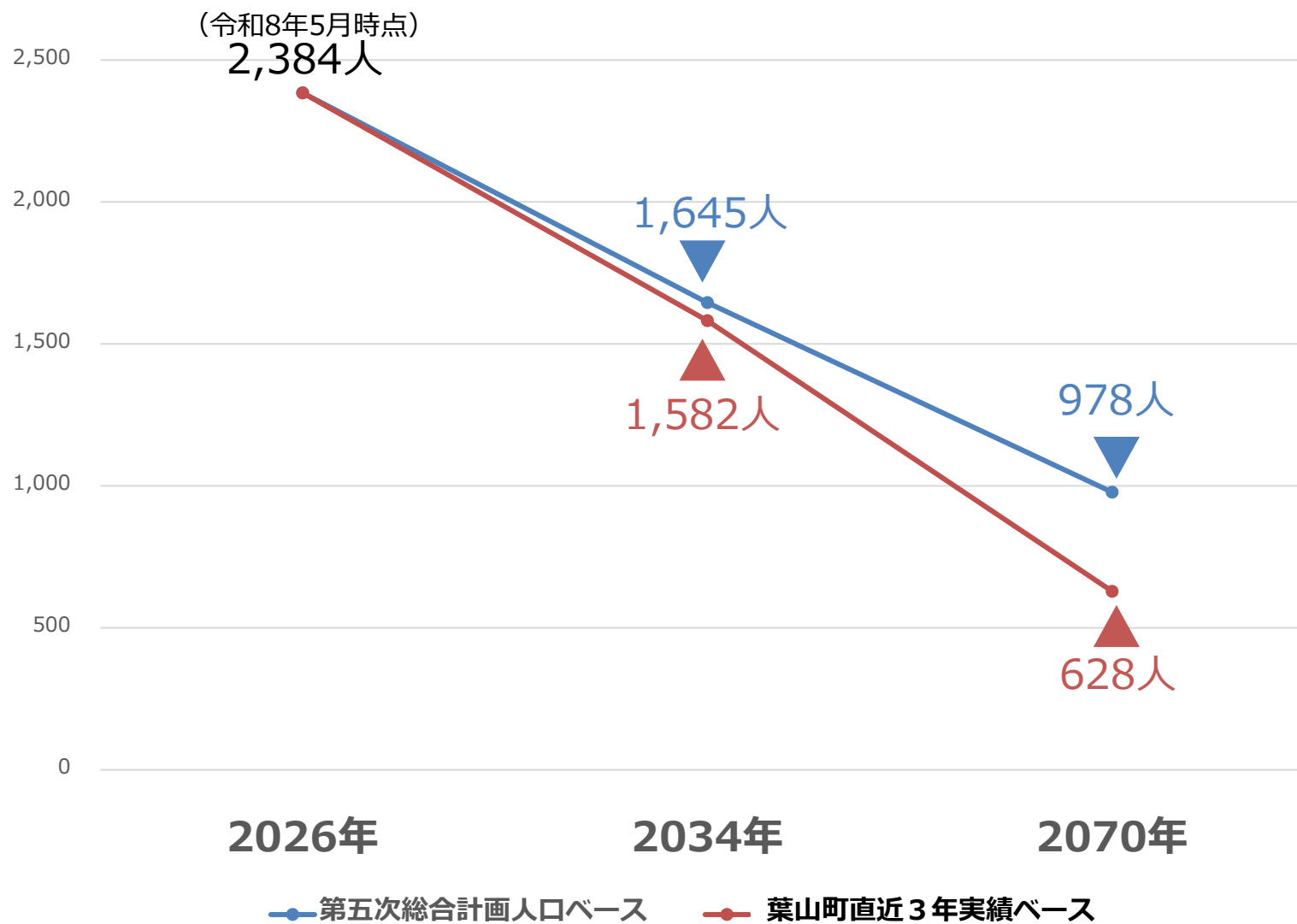
楽校の可能性を感じる取組

取組③

はやま楽校プロジェクト

葉山町学校整備基本構想の4つのコンセプトのうち、町民の皆さんに十分伝えきれていない「あつまる（開く）」を既存の学校で実践し、地域のコモンズ（拠点）としての可能性を可視化・共有する

直近3年の実績を踏まえた児童生徒数



公共工事設計労務単価の推移

参考：近年の公共工事設計労務単価の単純平均の伸び率の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	H24比
全 職 種	+15.1%	+7.1%	+4.2%	+4.9%	+3.4%	+2.8%	+3.3%	+2.5%	+1.2%	+2.5%	+5.2%	+5.9%	+6.0%	+4.5%	+94.1%
主要12職種	+15.3%	+6.9%	+3.1%	+6.7%	+2.6%	+2.8%	+3.7%	+2.3%	+1.0%	+3.0%	+5.0%	+6.2%	+5.6%	+4.2%	+93.4%

参考：国土交通省発行「令和8年3月から適用する公共工事設計労務単価について」

→ +10.7%

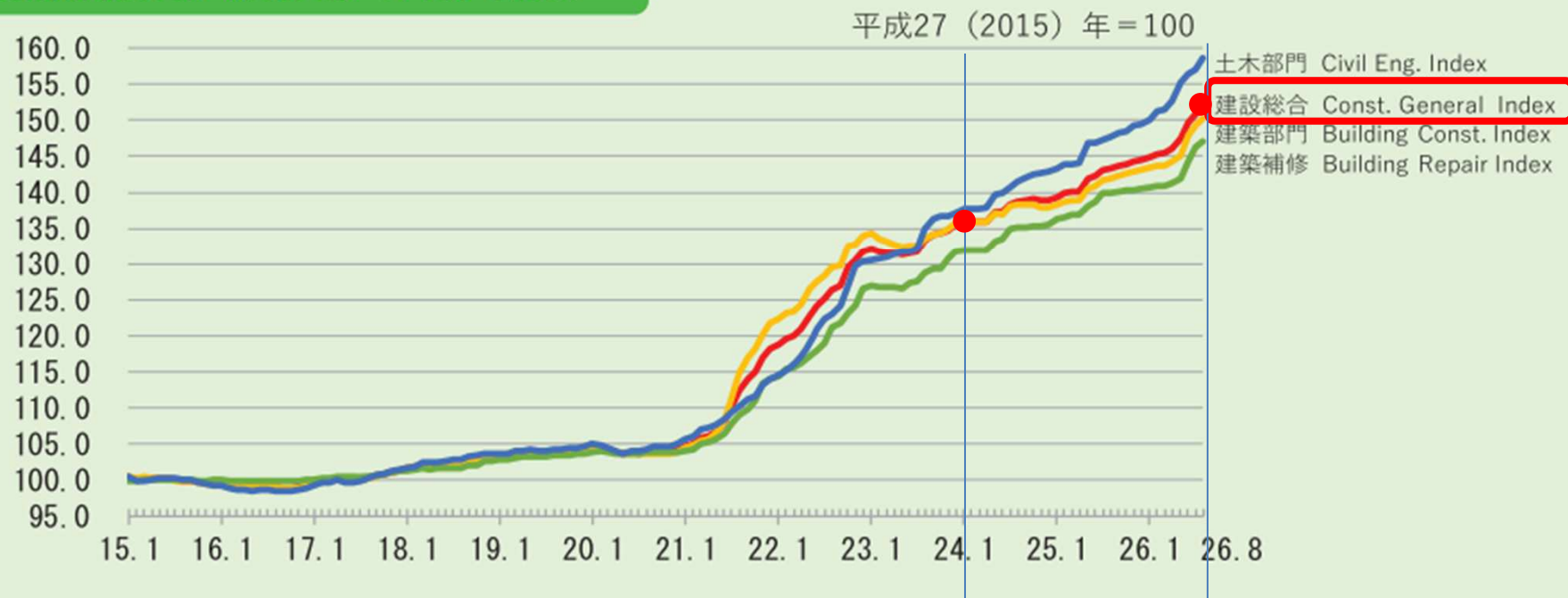
→ +10.0%

建築物価建築資材指数の推移

建設資材物価指数（東京）

Construction Material Price Index

参考:建設物価調査会総合研究所 建築物価建築資材物価指数



指数〈建設総合〉

構想公表から令和8年8月まで

$152.1 \div 137.6 \div 1.1053 \dots \rightarrow$ 約10%上昇

	対談者	主なテーマ
1	葉山まちづくり協会	新しい学校づくり（学校再整備）について
2	公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES） リサーチマネージャー 金 振 氏	AI時代・GX時代を見据えた「生きた教材」と「知の拠点」としての学校づくりについて
3	株式会社モノクローム 代表・秋谷葉山国際学園 創設者 梅田 優祐 氏	学校再整備に伴う概算コスト削減・構造見直し・資金獲得及び官民連携モデルの検討について
4	慶應義塾大学 理工学部教授 宮本 憲二 氏	学校再整備における環境技術の導入と児童生徒への教育的効果について
5	MUSVI株式会社 代表取締役 阪井 祐介氏	テクノロジー活用と新たな地域コミュニティの創出に向けて
6	Social Business Lab 代表 カーン 宇愛乃 氏	学校再整備における身体感覚重視の空間設計と地域連携による多様性教育の推進について
7	東京学芸大学 副学長 金子 嘉宏 氏	「大人が集う場」と「子どもの基礎学力・探究」の融合及び空間ゾーニングの設計論について
8	東京都市大学 特任教授 吉川 玄德 氏	防災拠点のあり方と被災地の経験に基づく危機管理、教室空間とインクルーシブ教育、校舎建設資金と官民連携について
9	葉山町教育委員	資金調達と校舎建設のあり方について
10	株式会社SPACE 代表取締役 福本 理恵 氏	インクルーシブな学びと地域交流を融合した新たな学びの空間について
11	株式会社BEAT ICE（葉山アイス） 山口 冴希 氏	児童生徒の探究心・問を育む教育環境と地域に開かれた学校施設のあり方について
12	株式会社CINRA 代表取締役 株式会社Inspire High CEO 杉浦 太一 氏	次世代の学習環境・地域拠点のあり方について

対談レポート見本

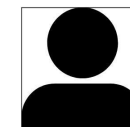
01 開催概要

開催日： 令和8年〇月〇日（〇）

テーマ: ○○○○○について

会 場： 葉山町 保育園・教育総合センター

参加者： ○○○○氏

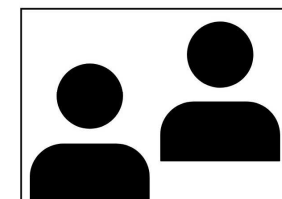


○○○○氏

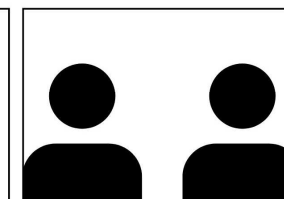
プロフィール

プロフィール

02 当日の様子

[illegible]

対談写真①



対談写真②

工事工程の再検討結果

項目	いながら段階工事		更地一体工事	
	評価	内容	評価	内容
コスト	○	18,843,336,020円(設計費用は別途)(税込)	△	19,135,954,060円(設計費用は別途)(税込)
工期	△	66ヵ月(5年6ヵ月) 開校時期：2036年4月(工事を前倒しする場合、2035年9月も可能) 既存プール解体/仮設体育館建設：14ヵ月 新築校舎建設：31ヵ月 既存校舎解体・グラウンド整備：17ヵ月 引越し等移行期間：4ヵ月 計：66ヵ月※ ※学校行事による工事不可期間を考慮した工期算定。	○	45ヵ月(3年9ヵ月) ※工事車両動線と正門に限定しない場合は、44ヵ月(基本計画から変動なし) 開校時期：2034年4月 一色小学校仮設・改修/既存解体：11ヵ月 新築校舎建設：31ヵ月 引越し等移行期間：3ヵ月 計：45ヵ月
物価上昇リスク	△	工期が長い場合、工事期間中の物価や労務費の変動リスクが高い 工期が長い場合、社会情勢による工期の変動リスクが高い	○	いながら段階工事と比較した場合、相対的に物価や労務費の変動リスクが低い
現場作業性	△	解体→新築の繰り返しで職種が途切れ、協力会社の仕事の連続性が無く、職人を集めにくい、工期遅滞要因となり得る。 工事ヤードに制限がある 工事用事務所/作業員休憩所を確保するスペースが敷地内に無いため、花ノ木公園等の隣接地に建設する必要があり、距離が離れる	○	解体と新築を計画的に施工可能 工事スペースが潤沢にあるため、敷地内に工事用事務所/作業員休憩所を設置可能
工事車両動線	△	同敷地内で児童の通学が続くため、厳格な安全管理が長年に渡り必要	○	工事搬出入ルートは正門側に限定することが可能 既存解体、新築時に児童・教職員動線と工事車両動線が一切干渉しない 一色小学校側仮設校舎建設時に工事車両動線と児童・教職員動線が干渉するため、運用での対応が必要
設計の自由度	△	既存校舎と干渉しない建物配置・規模に限定されるため、設計時の制約が多い	○	既存校舎の配置に対する新築校舎プランへの制約が生じない
学習への影響	△	新築時、既存校舎東側への騒音/振動の断続的な影響が大きい 解体時、新築校舎西側への騒音/振動の断続的な影響が大きい 解体時、新築時の粉塵の影響がある	○	仮設校舎建設時の騒音/振動/粉塵の影響がある 居ながら段階工事と比較すると校舎間の距離は離れており、工事期間も短い
運動スペース	△	第三・Ⅴ期において屋外運動スペースが大きく不足 (Ⅲ・Ⅳ期はスペースはほぼ無し、Ⅴ期は1200㎡程度) 仮設体育館はバスケットコート1面程度	○	屋外運動スペースとして一色小学校グラウンドほか、軽運動場スペースを確保可能 体育館・グラウンドは一色小学校児童と共用となる
通学先	○	児童は現在の学校敷地(既存校舎や新しく完成した棟)に通い続けることが可能	△	児童は一時的に別の敷地(一色小学校の仮設校舎など)へ通学する
引越し回数	○	1回(既存→新設)	△	2回(既存→仮設→新築)
まとめ	「更地一体工事」は、「いながら段階工事」より約3億円高額となるものの、工期を21ヵ月短縮することが可能である。基本計画・基本構想策定時の令和6年から令和8年の2年間で物価及び労務費が約10% (約12.8億円※、総事業費の約6.5%に相当) 上昇しており、今後も同様に上昇した場合、3億円の価格差は十分に相殺される可能性がある。また、2年早く開校できるため、児童・生徒が学習環境の整った最新の校舎や設備をより早期に利用することが可能となる。 一方、「いながら段階工事」は、長期間にわたり児童・生徒の通学と工事が並行するため、学習環境への影響の長期化や現場作業性の低下が懸念される。また、上記の複合的な課題から業者参加意欲が低くなる懸念がある。 以上の理由から、当初の基本計画・基本構想のとおり「更地一体工事」が適当である。 ※工事費に対して、労務費30%、建設資材費50%で算出			

はやま楽校プロジェクトの概要



1. このプロジェクトで目指すこと

葉山町学校整備基本構想の4つのコンセプトのうち、町民の皆さんに十分伝えきれていない「あつまる（開く）」を既存の学校で実践し、地域のコモンズ（拠点）としての可能性を可視化・共有する

従来の学校
まなぶ

従来の学校
くらす

従来の学校
まもる

今回実践・可視化
あつまる（開く）

2. 目的を実現するための3つの取組

これらの取組は単発で終わらず、定期的な対談・交流会の開催や、新しい楽校の使い方を試す企画への協力要請につなげるなど、学びに関するネットワーク形成の第一歩としたい

取組①

対談・交流企画

学校関係者・地域で活動する人・子育て世代・中高生・大学生・福祉・商工など、多様な立場の人が集い、未来の学校を語り合う場を創出する

取組②

小さな声も集める企画

普段、学校や町との関わりが少ない人、思っていることを声にすることがなかった人、そんな人たちの声を集め、気づきの機会にしたい

取組③

新しい楽校の使い方を試す企画

各校の特色や地域性を生かして「大人も使う」「大人と子どもが混ざる」新しい使い方をスモール実践

3. 実施期間

12月1日（火）～12月12日（土）を中心とした期間とする